

立命館経済學

第十一卷 第五・六号

昭和三十八年二月

梯明秀教授還暦祝賀論文集

内 容

古典学派の二つの貿易理論……………	井上 次郎	1
「労働の疎外」と「労働力の商品化」……………	清水 正徳	15
——梯明秀教授の理論によせて——		
いわゆる「平均化原理」と「限界原理」……………	井上 晴丸	66
——自利理論への疑問——		
「経済学方法論」と統計方法……………	大橋 隆志	93
「梯経済哲学」を生かすもの……………	平井 俊彦	128
自利価値論にかんする若干の考察……………	岡崎 栄松	151
——いわゆる「功利相定の原理」を中心として——		
宇野氏「経済法則」論批判……………	吉村 達次	170
独自の剰余価値と価値・価格理論……………	松田 弘三	188
——平和教授の自利古典理論批判の検討——		
財政制度論の一視点……………	加藤 睦夫	216
——戦後初期における制度改革を中心として——		
E E C内部の国際分業法則について……………	清水 貞俊	230
——合衆分業の原理によせて——		
梯明秀教授 略歴・主要著作目録……………		244

立命館大学経済学会

立命館経済学

第十一卷・第三号

論説

経済と政治における自由の展生(一) 高橋 良三

——その史的概観——

経済学研究の出発点にある哲学的課題(承前)

——四四年『手稿』におけるマルクス自身の

思弁哲学についての分析的吟味として——

梯 明秀

戦後財政整理の性格 加藤 睦夫

イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(一)

——ケムブリッジ大学におけるその近況を

中心として—— 松田 弘三

研究

わが国における割賦販売会計の理論(統)

桑原 幹夫

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第十一卷・第四号

論説

不換銀行券の本質 小牧 聖徳

石炭危機の本質と石炭調査団の限界

戸木 田嘉久

中国国民経済の発展過程(一) 松野 昭二

——工・農業関係の発展を中心として——

イギリスにおける経済学史研究の現状一斑(二)

——ケムブリッジ大学におけるその近況を

中心として——

松田 弘三

研究

地域開発と欧州投資銀行 清水 貞俊

発行所 立命館大学人文科学研究所